

# 東海道四百年の歩みを踏みしめ



現在の道を守っています  
かつての東海道は、現行国道1号や15号として、人の移動や物流を支えています。横浜国道事務所ではこれら神奈川県内の主要な国道（神奈川県内の国道延長の約4割にあたる約256km）を管理しています。道路を安全で快適に使用していただくために、日々の点検やバトロールをはじめ、道路構造物の補修や修繕、清掃作業などを行っています。

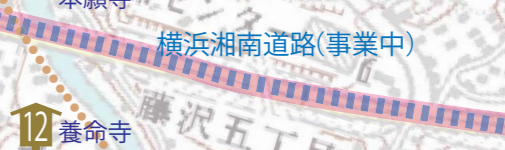
宿場マップについて  
東海道には53の宿場が（神奈川県内では9宿）ありました。これらの宿場は旅の宿として繁盛し、現在もその周辺には当時の名残をとどめる史跡や名所が数多く残っています。そこで、このマップでは道中の見どころや自然、行事などを広く網羅して、歩きながら東海道の「むかし」と「いま」が楽しめるように神奈川県内の9宿を5冊に分けて編集しています。  
なお、表示していますルートは横根旧東海道に沿ったウォーキングルートであり、実際の旧東海道とは異なる場合があります。

## 藤沢宿

1866年（慶長九年）には、江戸日本橋が五街道の起点となり、その後、五街道を中心に「里塚や並木などの施設が次々と整備され、東海道は日本を支える大動脈として、人・物・文化の交流に大きな役割を果たしてきました。さまざまな歴史を運んだ東海道、この道を歩き、踏みしめ、道が果たしてきた役割、これからの姿を見つめます。



11 本願寺  
明暦2年（1656年）の創建と伝えられています。山門のそばに双体道祖神塔や馬頭観世音菩薩像などがあります。



12 養命寺  
御本尊の木造薬師如来坐像は国の重要文化財です。ほかに日光・月光菩薩像や十二神将など仏像や石造物が数多く残っています。



13 耕余塾跡  
漢学者の小笠原東陽は読書（とくしよ）院を設立し、塾教育を進め、明治10年（1877年）、塾名を耕余塾と改めました。県下有数の中等教育機関で、後の首相吉田茂などを輩出し、現在は勝舟舟筆の「小笠原先生碑」が立っています。



14 川べりの遊歩道  
「水と緑と人」との調和を図った引地川沿いの遊歩道。公園もあわせて作られ桜並木も点在し、憩いの場となっています。

15 東海道現代遊楽帖  
「水と緑と人」との調和を図った引地川沿いの遊歩道。公園もあわせて作られ桜並木も点在し、憩いの場となっています。

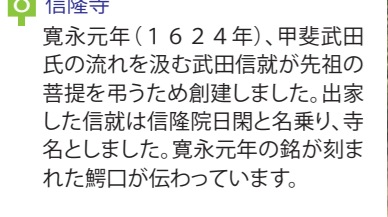
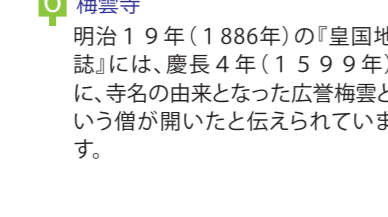


16 新湘南バイパス  
藤沢バイパスと西湘バイパスを一つにつなぎ、湘南地域の渋滞緩和を図るほか、さがみ縦貫道路、横浜湘南道路と連絡し、広域幹線道路網を形成する道路です。藤沢ICから大磯IC（仮称）までの15.1kmのうち、藤沢ICから茅ヶ崎海岸ICまでの9.6kmが開通しています。



今も昔も潮風香る茅ヶ崎の茶屋の賑わい。  
藤沢平塚宿の間で賑わったこの地は、三方所の立場がありました。四合四家、菱沼牡丹餅、南湖の各立場です。中でも南湖の立場は茶屋町と称されるように大きな立場で、十七世紀後半には成立していたと考えられます。

17 海前寺  
慶安2年（1649年）、徳川家光から朱印状が与えられており、江戸時代には13の末寺を持つ中本山。



18 東海道現代遊楽帖  
大正12年（1923年）に起きた関東大震災によって、水田の地中より木柱が出現したもので、歴史学者 沼田頼輔によって鎌倉時代に相模川に架けられた橋であると考証されました。平成の保存整備では、10本の橋脚のほかに新たに土留め遺構があることがわかったほか、地震による液化現象も観察されています。また、この橋には源頼朝が渡り初めをした後に落馬したという話も伝わっています。



19 上国寺  
江戸時代の地誌『新編相模国風土記稿』には、鎌倉後期の応永4年（1397年）に没した大乗院日経という僧がこの寺を開いたと記されています。本尊の日蓮上人木像は永正11年（1514年）の銘を持っています。

### ウォーキングの疲れを明日に残さないために

ウォーキングを続けていくと、やはり疲れが溜まってしまいます。明日も元気に、気持ちよく歩けるように、体のケアを忘れず。  
マッサージで足のケア  
足のマッサージは心臓から遠い順に足の裏→甲→アキレス腱→ふくらはぎ→ふともも→足先→つま先。この順で行うことで、血行やリンパの流れが促進されます。指圧の加減は、「痛いけど気持ちいい」程度で呼吸に合わせて押していきます。  
朝起きて一番にストレッチ  
疲れにくい体をつくるために、1日おきを目安に朝のストレッチを習慣化することによって、体の柔軟性が向上します。また、疲労回復や痛みの緩和・予防にもつながります。

- 大岡越前祭（浄見寺及び茅ヶ崎駅周辺／4月中旬）  
名奉行大岡越前守忠相の菩提寺で知られる浄見寺での露前祭や越前行列など、様々な催しが繰り広げられています。大正元年（1912年）にはじまった大岡忠相を顕彰する祭で、関東大震災などで中断した後、昭和31年に復活し、春のビッグイベントとして現在まで続いています。
  - 湘南祭（サザンビーチがさき／4月下旬）
  - 浜降祭（西浜海岸／7月海の日）  
茅ヶ崎市、寒川町の神社の神輿三十数基が西浜海岸に集まり、みそぎを行います。神輿を担いだ担ぎ手が荒々しく海に入る様子は圧巻です。
  - サザンビーチがさき花火大会（サザンビーチがさき／8月上旬）
  - なんでも夜市（中央公園／8月上旬）
  - 茅ヶ崎市民ふれあい祭り（中央公園／11月3日）
  - ちがさきレインボーフェスティバル（県立茅ヶ崎里山公園/11月上旬）
- ※開催日時等は都合により変わる場合もありますので、主催者または市へご確認ください。

### 東海道知っ得版

南湖の左富士  
歌川広重の傑作「東海道五十三次名所図会」藤沢で、「南期の松原左不二」として描かれているように、京へ向かう場合の東海道で概ね道の右側に見える菅の富士山が、鳥井戸橋あたりでは、道の左側に見えるという景色が展開します。江戸後期の道中記などにしばしば南湖の左富士が登場します。



13 海前寺  
藤沢市大庭・宗賢院の記録では、天正19年（1591年）創建。江戸初期の茅ヶ崎領主で旗本、丸毛家の菩提寺となりました。



14 熊野神社  
旧小和田村の鎮守で、京都の高位の公家が東下り中に菱沼にあった牡丹餅茶屋で休憩し「相模なる小和田の浦の姥島は誰をまつやらひと寝をする」と詠んだ歌碑があり、姥島（烏帽子岩）の帰属をめぐる伝説が残っています。



15 千手院  
本尊千手観音が有名で、境内には稲荷明神堂が建立されています。浜降祭では御輿が境内を練り浄める祭事も行われています。

